大山村	五、三七一・二	五、一〇〇・〇	一〇、四七一・二	一、〇六一・〇	九〇〇・〇	一、九六一・〇	五三〇・六	一、一〇六・〇	一、七三八・六
松島村	三、〇〇〇・〇	二、二八〇・〇	一五、二八〇・〇	六五〇・〇	一、四五〇・〇	二、一〇〇・〇	五六八・八	一、〇〇一・五	一、五七一・三
御所村	二、八九〇・〇	一五、七五〇・〇	二七、六四〇・〇	七三〇・〇	六七〇・〇	一、四〇〇・〇	四五六・三	六九六・〇	一、一五一・三
一條町	九、六〇八・〇	一七、六一・〇	二七、二六九・〇	一、三三五・〇	一、〇五三・〇	二、三七八・〇	九九三・八	一、二八七・三	二、二八一・一
柿原	六、九六八・〇	六、六〇〇・〇	一三、五六九・〇	六〇二・〇	一、一九五・〇	一、七九七・〇	七〇〇・八	一、三三六・〇	二、〇三六・八
知惠島	一、三二一・五	四、〇〇〇・〇	五、三二一・五	三二一・〇	四五九・〇	七七一・〇	二八〇・〇	四二一・四	六九一・四
土成村	九、九〇四・〇	八、四〇〇・〇	一八、三〇四・〇	一、一八四・〇	一、五三五・〇	二、七一九・〇	八八八・〇	一、八七三・七	二、七六一・七
八幡町	七、八一五・七	四、九五〇・〇	二、七六五・七	六〇五・〇	六二五・〇	一、二三〇・〇	四五三・七	七八六・二	一、二三九・九
市場町	五、六四六・〇		五、六四六・〇	八〇〇・〇	一〇〇・〇	九〇〇・〇	一〇〇・〇	二三八・七	二三八・七
大俣村	一五、一七六・〇	八、〇六〇・〇	二三、二三六・〇	六二七・〇	八三八・〇	一、四七五・〇	四七七・七	一、〇四三・〇	一、五二〇・七
中央石工	八六・〇		八六・〇		一〇・〇	一〇・〇		一一・三	一一・三
名西高女	二、六三八・四		二、六三八・四		六一五・五	六一五・〇		二三〇・六	二三〇・六
計	三三〇、七五五・二	二七五、〇三八・〇	五〇五、七九三・二	二〇、二七〇・〇	二六、四一〇・〇	四六、六八〇・〇	三、八一〇・七	二五、六四五・四	三八、四五六・一

澄田勘作氏よりの書翰

田邊良忠

私が「五十年前の國道改修」と題して先月號に高知縣の道路改良工事の事を御紹介しておいたのに對して海軍省建築局囑託澄田勘作氏から左の一文を寄せられた。

澄田氏とは此のお手紙によつて始めて御知遇を得たこと

であつたが、そのお手紙の中にもある通り氏は明治廿年頃德島の第五區土木監督署に勤務せられて當時の署長内務技師田邊義三郎氏に從い、親敷高知縣下の國道改修工事を視察監督されたことがあるさうで別文の手紙を寄せられたのであつた。

文中、右の田邊技師（同姓であつても私には未知の先輩であるが）の外に冲野、石黑兩博士等のお名前もあり、其の他お歴々も大分數へられてるので、昔の土木局を知つておらるゝ方々には懷かしい思出ともなる事と考へたので、澄田氏の御同意を得て、左にその手紙を御紹介することにした。

○

謹啓

未だ嘗欵に接するの榮を得ず候得共倍御清穆爲渉候段萬々奉仰賀候

陳ば本日道路の改良第二〇卷第七號を繙き候處圖らずも五十年前の國道改修と題する貴稿を拜誦し坐々に當時の事共眼前に彷彿して轉た懷舊の感に打たれ申候

右は恩師田邊義三郎（獨逸に十二年間留學ハノーバー工部大學卒業、歸朝後直に内務省に奉職、當時冲野、石黑兩博士と俱に三偉才と稱され德島第五區土木監督署長なりしが後年東京（第一區）大阪（第四區）を兼務せられしを以て直轄河川拾數川の内六大川を擔任せられ候）と申さるゝ方が十八年高知縣に出張國庫補助の檢査をせられ、越へて廿年十月中村土木局次長四國新道視察の爲出張に付田邊署長は大阪より多度津に向はれしが、其の當時小生も德島に在勤致居候ものから日部下技師に從行して同地に出迎へしに、金比羅を始め各宿舍には紫の幔幕を張りめぐらし、警官二名張り番をなすなど地方廳の待遇は頗る叮重を極め、同地の素封家大久保湛之丞氏の所有なる風光明媚の丘陵にて松茸狩りをなして晝食を取り、箸藏寺の險坂を攀づる際は腰に帶紐を結び付けて人夫をして引張らせ候事とて、全く平地を步むも同樣何等の苦痛も感ぜず、行く〳〵新線路視察の道すがら大久保氏が小生に向つて、濕拔溝外に並木

敷を設くるの可否を質問せられしも、悲い哉夫等の素養なき小生卽答も出來ざりしより歸來先生に相尋ね候所、いやあれは飛んだ間違つた仕事をやつて居る、人道と車道との區別を辨せざる遣り方とて諄々として說明せられ、早速署長の名義を以て關愛媛知事に向つて、斯る工法は識者の笑ひを招くとの凄文句入りの警告文を送りし事など、其の他色々と興味深き逸話も多々有之候、此深山にて始てホト、ギスの正體を見且つ鳴き聲を聞き申候

廿一年末小生は本省土木局に轉任致候爲其の後該工事が如何に相成りしや一向消息を知らざりしに、總て豫定通り順潮に進捗致候由、今更ながら無限の痛快を感じ申候、夫れに付けても當時有らゆる萬難を排し、銳意御劃策相成りし田邊縣令の英斷にて、爾來山海倶に不便極る海南の一天地に多大の便益を與へられし功績は筆舌には盡くし難く、當時令名嘖々たりし三島栃木縣令と双璧との好評さへ耳にせし位に候……小生はほんの一兩度御目に掛りしが、奈何にも堂々たる御風采なりしことを今尙記憶致居候が、お寫眞を拜見して一層追慕敬服の情を呼び起し申候

酒井德島縣令には屢々御目に掛り居候が當時飼養令に依り乘馬熱盛んにて奏任官以上十數名連合し、主馬寮の武部兵治と云へる先生を招聘して、每土曜日に監督署前の馬場にて頻りに馬術の練習を勵み居候が、小生丈けは格別の扱ひを受け加入致居候、自慢の樣なれど馬は小生が一番馬くて知事の朝霞と云へる駿足には、小生の外餘り他の連中には乘せられぬ位にて、打球にも二ケ年續ひて出場幸に二度とも優勝組に入りしが、當事の事共追想致候ては無上の欣快を覺へ申候

高知縣官にて井上吉千代（後に國助と改名）と云へる者は右國道並に浦戸港其の他土木工事に關係し、中々の敏腕家なりしものから田邊先生に見込まれ德島の土木監督署に轉任し、後年大阪市に轉じて永く水道課長を務めしが、此男とは骨肉も啻ならざる親交ありて醉へば必らず土佐の高知のハリマヤ橋を歌ひつゝ互に怪氣焰を吐きし間柄に候

卅一年春石黑博士に從ひ海軍に轉任、數年前より海軍士

木建築史の編纂に從事致居候關係上、斯る古文書には非常の興味を以て愛讀致居候、何分三年前に古稀も打過ごし候老ボレとて物忘れをするには大閉口致居候……小生の事は名井、中川兩博士にお尋ね相成候らはゞ素性來歷も判明可致內務省には青年時代足掛十四年間御厄介に相成候が、約五十餘年の今日まで腰辯を續け、若い連中に伍して頻りに駄辯を弄して鹽を蒔かれ居候得共例の特製の强心臟にて平然お茶を濁し居候仕合御憐笑可被下候呵々

×

淺香氏の執筆せられし快著の記事中「闘の回顧」なるもの、內容は如何なるものに候哉若し御差支なくば一部頂戴致度兎角淸廉潔白の人士が往々飛んでもなき捲き添を食つて迷惑をせらるゝことも多々有之候事、洵に以て同情に堪へざる次第に候

先年海軍にても例のシーメンス事件にて兩院は左ながら鼎の沸くが如く天下の輿論翕然として起り、非難攻擊を逞ふせるより、さしもの英傑山本首相も遂に引退の止むなきに至りしが、彼の日露戰役の大殊勳者として東鄕大將と併稱さるべき山本大將を賄賂取りの親玉として調べるの汚名を冠し、延ひては純潔明玉にも比すべき村上大將にまで縱令一時たりとも汚點を印するが如き、一つは崇敬の範となり一は强慾の的となる、げにや世の中は目明き千人盲ら千人にして人生の運と不運とは斯く迄に掛け離るゝもの哉と座ろに兩將軍の風貌を仰ぐ每に無限の感に打たれ、憤恨遣る瀨なきものから其の當時先輩其の他に對し大に辯解に努め、軍紀の嚴肅なることを鼓吹せしことも有之候、左れど稀世の英雄は永く雌伏するを許さず、再度まで內閣の首班に立つて辣腕を揮はれし山本伯に對し、世人はけろり閑として往年そんな事があつたかと云はぬ健忘さ、小石を投じてさへ直ぐにも汚だつ谷川の水！　昔ながらの國民性は容易の事では改善せられざるこそ遺憾の極みに候噫

先は右得貴意度草啓段斯に御座候　敬具

七月九日　　迂老勘作

田邊哭臺玉案下